

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102722		
法人名	株式会社リボン		
事業所名(ユニット名)	グループホームなぎのやど u1、u2		
所在地	和歌山市下三毛870-2		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3070102722-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3070102722-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年2月17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なぎのやどでは、ご利用者様またスタッフを含め家族となり、地域の方々との交流を行いその人らしい普通の暮らしを愛する地域での日常生活をご支援させていただきます  
またご本人様、家族様のご希望があり医師の指示のもと可能な限り看取りまで支援させていただきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の眺望の良さを誇る環境に恵まれているだけでなく、介護の仕事に使命感を持つスタッフの生き生きとした姿が印象的な事業所である。入居者の穏やかな表情は、医師・訪問看護師・市の担当者との連携が丁寧に行われ、入居者の状態等がしっかりと記録・職員間に共有されている証といえる。現在、コロナ禍の影響に伴い地域との連携が思うように取れない状況であるが、事態が収まれば働きかけを再開し、地域と事業所双方の協力関係をさらに進めたいと考えられている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修にもその人らしい暮らしという部分を理解してもらえるように新人研修で運営理念の理解を取り入れている。	理念については、ホールに掲示し日々唱和している。また研修においても、入居者が自宅で暮らしているよう、日々の生活に無理強いをせず、できるだけ自由に過ごせるよう支援に努めること等、理念についての具体的な説明を行うことで、理解と共有を深め実践に繋げられるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年よりコロナ禍ともあり外部からの訪問は避け頂いているが運動会のお知らせ等は毎回送付してくれている。運営推進会議は報告書を送付し何かあれば意見をもらっている。	自治会には入会していないが、地区の自治会長とも連絡を取り合い、清掃活動などに職員が参加するようにしている。コロナウイルスの状況が治まれば、小学生・中学生との交流を再開しようと検討されているとともに、近所から取れたての野菜の差し入れがあるなど、地域との交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中でも運営推進会議の資料や通信を見ていただき清掃活動については感染対策を行いながら参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議の資料を送付している。防災訓練の実施、地域活動への参加、感染対策、安全対策等の課題を含め委員に報告している。	コロナ禍の影響に伴い、対面形式での運営推進会議は行えていないが、2か月に一度、自治会長・包括支援センター職員・ご家族代表・担当医・地域の方等に資料を送付し、ご意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とはその都度不明点を聞いている。生活保護課、指導監査課、地域包括支援センターの担当者とは常に情報交換を行い不明なことは相談している。	生活保護ケースワーカー・包括支援センター担当職員・市の関係各課と相談や情報交換等を丁寧に行うとともに、入居者やご家族の希望に添える内容の支援ができるよう協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに外に出れるようにしている。自施設内での定期的な研修を行いチェックシートで苦手項目の洗い出しを行っている。定例会議での議題にも取り上げている。	事業所内外の研修に加え、身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催し、内容を管理者・スタッフで共有している。特に言葉による拘束には気を付けており、入居者の行動を予測し、職員が言葉より先に寄り添えるように努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での定例会議を行い自施設に伝達講習を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内定期的に研修を行いスタッフへの伝達講習を行い制度の理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明をし理解を得られるようにしている。改定等は文章と口頭での説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ前までは年に1回の家族会を開催していましたが現在は開催できていないが玄関先での面会は可能としていますのでお会いした時にお話を聞いている。玄関先には意見箱を設置している。	コロナ禍の影響に伴い、家族との全体での会議は中止している。代わりに玄関先での面会や、以前は郵送していた入居費の領収書を手渡しすることで、家族と職員との会話時間を設け、入居者や事業者についての意見を聞くようにしている。また、外部者へも意見・要望を出せる旨を、契約時に説明のうえ書面にも明示している。家族等の要望から、事業所だよりに入居者の写真をまんべんなく載せるように配慮した経緯がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフが面談を行い意見や希望を伺う機会を設けている。それにより環境は改善されている。管理者は常に意見を聞けるようにしている	資格取得や運営に関して、年に一回、職員と管理者とで面談を行っている。また、職員間及び管理者との信頼関係も良好で、風通しのよい職場環境となっている。生活に必要な器具購入だけでなく、運営に関する話し合いも行い、過去には、職員の意見・提案により中庭の芝生の植え付けや福祉車輦を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスojt評価シートを作成しスタッフは取り組んでいる。シートに対して評価を行いキャリアアップすることにより給与水準や、やりがい等、スタッフ個人の向上心に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスojt評価シートを作成し段階に応じてスタッフ個人のスキルアップに努めている。代表、管理者が全て把握している。また定期的にスタッフ間会議を開きスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍で他の施設への見学や研修は自粛しているが他の施設からの情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、希望や要望を聞き入れ、極力反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちらも入居の際、希望や要望を聞き入れ、極力反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や、家族と話し合い必要な支援を考え実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の調理、洗濯等を手伝ってもらったり、職員がわからないことは教わったりと関係は築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族様と連絡を取り合い相互関係は築けている。コロナ禍ではあるが家族の方に気軽に来れるような環境づくりにも努めている。現在は面会は屋外でとなっておりますが来ていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが本人の希望があればできるだけ添えるようにしている。また数年来の友人も限られた時間ではあるが面会に来てくれている。	コロナ禍の影響に伴い、美容院等への外出は控え、現在は訪問美容を利用したり、家族等との外食などは自粛している状況であるが、墓参りについては、スタッフが支援している。また、携帯電話の使用は各自自由としている。なお、月1回送付する事業所だよりの果たす役割も大きい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、ダイニングでの座席を割り振る等孤立せずに利用者同士が関わり支え合える様な環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者の家族の方にもイベント参加の案内を出したり、ボランティアや、文書でのやり取りも続いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望を自分んで話してくれる方はそれに沿えるように支援している。またそれが困難な方に関しては日頃よく観察し様子や動きから推し量り検討し対応するようにしている。	事業所独自のシートを用いての記録及び共有がしっかりとされており、職員全体が入居者の状態把握ができています。意向の把握の困難な入居者に関しては、職員間でよく話し合っって対応するよう配慮されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族のバックグラウンドを把握して職員がそれを共有しこれまでのサービス利用の経過等に反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録に1日の過ごし方を記録し、申し送りで共有している。特記事項があればノートに書き記し共有を行っている。また月1回のカンファレンスを行い以前と変わったことを話し合い現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族の意向を踏まえ、職員のカンファレンス内容や家族来訪時に出された意見要望を基に介護計画を作成している。家族には定期的に見てもらい同意を得ている。	介護計画は、かかりつけ医・訪問看護師等の意見を反映した総合的なものとなっている。モニタリングを通して、必要時には変更を行いながら現状に即した介護計画を作成するよう配慮がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者家族の意向を踏まえ、職員のカンファレンス内容や家族来訪時に出された意見要望を基に介護計画を作成している。家族には定期的に見てもらい同意を得ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が個人的に付き合いのある馴染みの場所(美容院、墓参り等)への付き添い等を行っているコロナの感染状況にもよる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの様々な地域資源を把握しており、それを活かし生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の多くが希望するかかりつけ医に月1回の往診を受けている。また必要の場合は適切な医療機関で診察が受けられるように紹介してもらっている。	入居者・家族の希望に伴い、事業所の提携医による月1回の往診を受けている他、週1回、看護師・歯科の往診もある。また、他科受診が必要な場合は家族が付き添うこととしており、その際、日々の様子や大きな変化を記録した内容についての情報提供を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護師が週1回来られている。また、特変事項があれば連絡をし適切な受診や看護を受けられるように連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師・看護師に、入院者の情報提供を行い、またかかりつけ医による情報提供もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重要事項説明書で重度化した場合や終末期看取りに関する指針について説明を十分しており、重度化した場合はかかりつけ医師と家族、職員が話し合い方針を決めている。	入居時に、入居者・家族には十分説明を行っているが、段階に応じて都度話し合いを持つようになっている。看取りを希望される方も多いことから、職員用マニュアルを備え、希望があればご家族の宿泊もできるよう配慮している。昨年度は1名の入居者の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催している救命講習に参加し定期的にホームでも研修を開催し身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種災害に対する防災マニュアル(案)を作成しそれをもとにスタッフに周知徹底を行っている。またさまざまな災害を想定した避難訓練を地域の方や、消防署と共に定期的に行っている。	ユニット毎に物品の備蓄を行い自家発電も備えている。昼夜を想定した年2回の防災訓練を、入居者や近所の方も参加のうえ実施している。過去に災害対策について和歌山市から表彰されたことがある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人個人の人格を尊重し、きちんと考慮した言葉かけや対応をしている。チェックシートで確認を行っている。	基本的に呼称は姓名を用いるようにしているが、入居者や家族の要望に添って声掛けを行っている。トイレ誘導などは、言葉とともに身振り手振りで伝える配慮をしている。入居者の個人情報、施設した書庫に保管することで、責任ある取り扱いを徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしてほしいか表せる利用者は希望を聞き実行している。表すことが困難な利用者に対しては、簡単な質問をしたり、表情を見たりして自己決定をしてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりを優先せず、利用者の希望に沿って過ごしてもらっている。コロナ前までは外出支援も行っていた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たいものを選んでもらっている。美容に関しては施設内ではなく外部の美容室に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は得意なことや力量に応じて食事の準備や後片付け、盛り付けなどを職員と行っている。コロナもあり外食等は控えているが施設内ウッドデッキで食事をして楽しんでもらっている。	コロナ禍以前は、食材の購入など入居者と共に行っていたが、現在は制限している。しかし、事業所の立地環境を活かし、天候の良い日には、庭でお弁当を広げることもある。また、ホットケーキ等おやつ作りも楽しむとともに、家庭菜園からの収穫物が食卓にあがった際は、入居者の気分の盛り上がりが見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材の内容が偏らないようにバランスを考慮したメニューを作っている。また食事や水分量も記録している。その人に適量であるかにより調整している。なお定期的に体重を計り急な体重の増減に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問衛生士が週1回来てくれ口腔チェック口腔清掃を行ってくれている。食後は職員が一人ひとりの口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導、介助を行い、排泄パターンを把握し排泄の失敗や紙パンツの使用を減らすように支援している。	夜間におむつを使用する入居者もいられるが、基本は排便を座薬でコントロールすることはなく、入居者のパターンに合わせたトイレ誘導を行っている。あくまでも排泄の自立を見据えての支援であり、職員は自立した入居者の姿に力を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜の多い献立を提供し適量な水分摂取をしてもらうように働きかけている。便秘がちな利用者には腹部マッサージ、ベッド上での運動も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴可能だがほとんどの利用者が隔日に入浴している。入浴順も偏らず入浴できるようにしている。季節ごとにゆず湯や、菖蒲湯を楽しんでもらっている。	ほとんどの入居者が隔日に入浴している。入浴を嫌がる入居者もいるが、無理強いせず、声掛けを工夫している。 車いす使用の入居者も、職員2名介助のもと、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごしたい利用者には自由に過ごしてもらえるようにしている。体調の悪い利用者には安心して休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の投薬内容と効果、副作用をファイリングして用法や、容量を理解している。また投薬後の利用者の状態の変化を注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの力量に応じて、掃除、料理、洗濯もの干し、花植え、草引きや水やりなどしてもらっている。またカラオケ、買い物、季節の行事花見、夏祭りクリスマス会等行いながら楽しく暮らせる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前までは外出、外食等希望を聞き出かけていたが今は行えていないがブドウ狩りや外食も貸切状態にして出かけている。	施設内から雄大な眺望が可能である。また、庭に出るとすぐ下の公園に咲く桜の花見や、大きな樹の下での会話が自然に弾む恵まれた環境にあることから、日光浴等で戸外に出ることは日常的に行われている。今後、コロナ禍以前のように家族等との同伴で外出を楽しみたいと入居者は願っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば所持してもらい好きな時に使うことが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば極力添えるようにしている。また携帯電話を所持し自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物などなくシンプルな空間にしている。トイレや浴室の表示がわかり易く落ち着いた空間を心がけている。リビングには季節の花を飾っている。また共同室からの展望が良くホームに居ながら季節を感じることができる。夜間は夜景も楽しめる	共用空間では、庭側は大きなガラス戸になっており、室内からも眺望がよく部屋全体が明るくなっている。また、部屋全体に程よくソファが置かれ、入居者は思い思いに腰掛け、食事時間以外にもテレビ鑑賞や洗濯物たたみ、新聞や雑誌に目を通す等リラックスした入居者の姿が見られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にも利用者個人個人が気に入った場所があり、気の合う利用者同士自由にコミュニケーションをとられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は本人が持ち込み壁には家族の写真や手芸品を置いたりして居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはあらかじめベッドが置いてあるが、入居者・家族の希望で畳敷きも可能なつくりとなっている。入居者によっては、馴染みの品や仏壇の持ち込みもある。居室の内側からも施錠が可能であり、居心地よく安心して過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げている。その他のトイレや風呂場等もわかり易く表示している。リビングや居室内の段差や足がひっかかりやすいものは極力取り払い安全にも配慮している。		